

公表 事業所における自己評価総括表

○事業所名	児童発達支援・放課後等デイサービス ヒトツナ日本橋馬喰町教室		
○保護者評価実施期間	2026年 1月 28日		2026年 2月 14日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	4人	(回答者数) 2人
○従業者評価実施期間	2026年 2月 14日		2026年 2月 21日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	4人	(回答者数) 2人
○事業者向け自己評価表作成日	2026年 3月 13日		

○ 分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	○アセスメントや支援方法の充実を図ろうとしている。	○心理検査や支援方法の研修に参加し、準備をすすめている。	○アセスメントについて 検査導入に伴うコスト、注意事項、法的に確認すべきところを調査し、ひとつひとつクリアしていく。それらを踏まえて計画書を作成する。 ○体験時の行動観察 アセスメント担当者は法的に児童発達管理責任者であるが、体験時の様子を他のスタッフよりも聞き取りを行う体制を安定して行えるようにしていきたい。
2	○利用者に適した支援を提供しようとしている。	○スタッフが記録をとって、支援の改善に努めている。 ○利用者が楽しめるもの、興味関心のあるものを中心に提供し利用としている。	○スタッフの強みは強みとして保つ。その上で、「専門領域」の支援も加えていく。専門領域の支援の実施については、その内容もさることながら、実施の形態や実施のスケジュール等マネジメントの側面も出てくるので、どうやっていくかは今後検討。 ○受講した研修を支援に反映していく。数か月間の研修を4月に終了することから内部でどのように運用していくかを検討。例えば、外部との連携を軸にして、少しずつ広がっていく形でやっていくか形が現段階では考えられる。事業所の現状に合わせた形で、事業所に反映ができれば、利用者、スタッフともに有益なものになると考えるが、5月以降の調整をしていく。
3	○地域の関係機関に訪問をしている。	○中央区内、近隣区の相談支援事業所や行政、訪問看護事業所等のリストを作成し、定期的にコンタクトをとる形で計画的定期的な訪問を開始した。	○効果的な支援ができるようにご家族同意のもと、相談支援事業所に情報共有をする。支援での会議に出席するとともに、計画的定期的なコンタクトをしていく。

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	○更に効率的な運営や支援を行っていく。	○役割分担、タスク管理と情報共有、進捗状況の把握を現在よりも明確にわかるようにしていく。	○分掌の整備の提案と動静表の作成により改善を図る。月間スケジュール表などでタスク管理をするようにしておけば、業務がより効率化できるのではないかな。
2	○家族の支援の充実を図る。○ご家族との交流の機会を更に増や	○ご家族支援 立ち上げ期のため、事業所内の仕組みづくりを現在行っているため、ご家族支援のプログラム(保護者会、ペアレントトレーニング)は今後、計画実施していく。 ○ご家族への伝達/情報発信 ・現状、HUGを中心としてで保護者の方との交流をしている(ご家族がお迎えをする形の事業所と比較して、保護者と交流する機会がやや少ない)。 ・事業所の情報発信の量が少ない。事業所の運営体制整備中のためSNSの実施等を含めて実施が遅れたこと。	○ご家族支援 ・子育てに関する助言等に関しては、子育てや福祉制度に関する相談窓口を事業所内に設置したので、ご家族に周知をしていく。 ・保護者会等のご家族向けの催し物プログラムは年間スケジュールを組む中で計画的に実施をしていく。 ・ご家族支援の起案は作成してあるので、内部で検討し、今年の9月10月を目途に実施をする。 ○情報発信 ・HUGの保護者のご連絡の部分より伝わりやすく内容を工夫すること ・SNSやインスタグラムについては、基本毎日更新する形で開始をしている。
3	○5領域の支援方法と1日のスケジュールを対応させる形で、効果的な支援が行えるように構造を作っている。	○1日の運営の仕方については、「専門領域」の支援の追加。実施の形態や実施のスケジュール等の調整を今後行っていく必要はある。	○プログラムの実施以外に、具体的な連携の形や調整の分掌を整備。